



本日開花
すばらしいスタートが切れました。ありがとうございます。



ご入学おめでとうございます！



入学式より



1年5組全員集合

令和5年度 天童市立第四中学校 入学式 式辞

優しくあたたかな春の光が、草花や虫たち、そして私たち人間を含む、生きとし生けるもの全てに、動き出すエネルギーと勇気を与えてくれています。まさに春爛漫。ここ天童四中に入学する146名の皆さんを祝福しており、それは中学校生活が充実したものとすることを予感させます。この良き日に、天童市教育委員会教育委員 〇〇〇〇様、PTA会長 〇〇〇〇様のご臨席のもと、令和5年度入学式を挙行できますこと、誠に喜ばしく、厚く御礼申し上げます。

1問目です。今の日本の元号はなんと言うのでしょうか。元号とは日本だけにある年の数え方です。そうです。「令和」です。簡単だったでしょう。だんだん難しくなっていきますよ。

2問目です。それではこの「令和」。今から約1400年前の奈良時代に作られた歌集の中の言葉から作られました。その歌集とは何でしょうか。そうです。「万葉集」です。この「万葉集」という歌集、日本で最も古い歌集であるといわれていて、約4500首もの歌が収められているとのことです。「令和」という元号は、この「万葉集」の中の「梅」の花のことを詠んだ和歌からつくられたのだそうです。

さて、最後の問題です。それでは、この「令和」ですが、手で話す言葉を手話といいますが、手話で「令和」をどんな手話表現になるのでしょうか。

なぜこの表現になったか、感の良い人は気づいたのかと思いますが、これは「梅のつぼみが開いて未来へ向かっていく様子」をあらわしたのだそうです。

この花をみてください。なんていう花か知っていますか。いろいろな花があります。色も大きさも種類も違います。ですが一つ一つがきれいです。この花たちを比べることはできませんし、比べること自体が何の意味もないことだと思います。私は、この花たちは新入生のみなさんと同じなのではないかと思っています。

人間の目には見えませんが、ひとりひとりそれぞれが、自分だけの花を持っていて、その花を咲かせているのです。一人一人の花を、比べることは何の意味もない、馬鹿げたことであり、つまらないことだと思います。新入生のみなさんは、どんな花を咲かせたいですか。

前置きが少々長くなりましたが、校長先生から皆さんに贈るお祝いの言葉は3つです。

1つめ。「天童四中で自分だけの花を咲かせよ。」です。みんなと同じ色、ちがう大きさ、自分だけの花を咲かせてくれることを期待します。他とちがうものこそ価値があり、他とちがうものこそそれであるのです。

贈る言葉2つめ。「夢を持って。人に馬鹿にされるような大きな夢を持って。」です。これまで人類は、様々な夢をかなえて、今があります。みんなができるわけがない、実現不可能であると思われたことが、今の私たちの周りに溢れているのです。「夢」は未来であり、生きること、学ぶことのエネルギー そのものなのです。

贈る言葉3つめ。「『ありがとう』という感謝の心を大事にせよ。」です。君たちの父と母が出会い、君たちを授かったこと。これは奇跡です。さらに、天童四中に入学し、仲間、先生方と出会ったことも奇跡です。これは、有り難い、あり得ない奇跡がつながっていると考えられます。日常、そんなことは、当たり前になり忘れ去られてしまいがちです。何に対しても、どんなことにも、自分を原点に立ち返らせる「ありがとう」という感謝の心を大事にしてほしいと思います。

保護者の皆様、本日はお子様のご入学、誠にありがとうございます。子どもたちは、ステップアップした中学校というステージで、新たな自分との出会いを楽しみにしていると思います。新たなステージでの生活をわれわれ教職員が担うわけですが、全力を尽くして、一人一人の花を咲かせるために、種をまき、肥料を与え、時には温かいところで、時には寒いところで育てながら、最善の方策を考え、子どもたちに寄り添い、保護者の皆様と連携を図り、同一歩調で進めてまいりたいと考えております。心配な所がありましたら、遠慮なくご連絡いただければと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

最後になりましたが、本校の自慢は、地域の宝でもある「子どもたち」です。3年生を見てわかるように、地域の未来を託せる人づくり、地域を幸せにする人づくりが、わが天童四中の使命であると考えております。

その実現のためには、ご臨席いただいておりますご来賓の皆様、保護者の皆様、そして地域の皆様には、これまで以上にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新入生が新たな時代を「限界は空高く」を胸に、天童四中、引いては天童市、山形県、日本国に大輪の花を咲かせることを祈念し、式辞といたします。

令和5年4月10日

天童市立第四中学校 校長 石山 重典

新入生代表のあいさつ

1年5組 ○○ ○○



暖かな春の訪れと共に私たち新入生は無事に天童市立第四中学校の入学式を迎えることができました。多くの皆様方からお祝い、励ましの言葉をいただき、中学生になったという実感をかみしめています。本日はこのような素晴らしい式を開いていただき、本当にありがとうございます。

中学校では、これまでの時よりも学習内容が難しくなり、今まで経験したことがなかった定期テストもあるということをお聞きしました。そこで、心がけることとして、きちんと予習、復習を行い、定期テスト直前で慌てることがないように日々学習していくように努力していきます。また、学校で決められたルールやマナーをしっかりと守り、安全に気を付けながら生活していきます。そのためには日頃から周りの様子をよく確認し、一度立ち止まって考え、他の人に迷惑をかけるように生活していきま。先輩方から教えていただいたり、学んだりは実際に行動に移し、「実行」するということが大切にしていきたいです。また、生涯付き合っていけるような友達を作ることができたら素晴らしいと思っています。

学校行事や部活動に一生懸命に取り組んでいる先輩方のお姿をお手本に、後悔のない中学生を送り、中学生らしい責任感のある行動ができるように心がけます。

校長先生をはじめ、先生方、上級生の皆様方、私たちのことを温かく、時には厳しくご指導してくださいませようをお願い申し上げます。本日は誠に素晴らしい式を開いてくださり、ありがとうございました。

2年生の目標

2年1組 ○○ ○



今日から2年生としての生活がスタートするにあたり、今年度の目標を考えました。まず、学習面では、普段の家庭学習のやり方を見直し、定期テストの2週間前からのテスト勉強にスムーズに取りかかれるようにすることです。

部活動では、先輩という立場に変わるため、自分のことを自分ですることはもちろん、周りに目を配り、余裕を持って行動することができる2年生を目指していきたいです。

また、生徒会事務局長として、先輩方をサポートできるようにするだけでなく、もっと積極的に議論に加わり、より良い四中づくりに携わっていききたいです。

昨年度は、本当にあっという間に過ぎてしまい、時間の大切さを改めて知ることができた1年でした。新年度になり、校長先生も変わり、クラス替えもあり、部活動の顧問の先生も変わります。新しいことが始まる時は、不安と期待の両方があります。しかし、昨年1年間での経験を生かし、新たな出会いを大切にして、昨年以上に強い絆で結ばれた人間関係を築き上げていきたいです。そして、仲間と共に目標に向かって着実に努力を積み重ね、何事にも本気で取り組んでいきたいです。

翔くために

3年1組 ○○ ○○



共に学年は今年度最高学年となりました。中学校生活最後の1年が始まるにあたり、私は部活動と学習に力を入れたいと考えています。

6月には、最後の中総体があります。私は、ソフトテニスで、昨年果たせなかった個人・団体両方での県大会出場を目標にしています。私はゲームになると自分の思った通りにショットが打てず、自信をなくしてしまい、自分のペースを作れないときがあります。日頃から試合を想定して緊張感をもって練習に臨むことでこの課題を克服できるようにしたいです。

また、中学3年生となり、今年受験生として学習に励む1年になります。私は定期テストに向けた学習で、「このくらいでいいか」「後でやればいいのか」と自分に甘えてしまうことがあります。そんな弱い自分に打ち勝ち、自信を持って期末テストに挑みたいですね。それが達成できれば、受験生としての学習にも強い気持ちを持って臨むことができると思います。

最後に、今年最高学年になり学校の顔として活動していくこととなります。どんな時も、先輩の良き手本として、学校全体を引っ張り、周りの人を笑顔にできる人間に成長したいです。

そして、今年中学校生活最後の1年です。共に学年の皆さんは、学校行事、毎日の日々が全て最後になります。来年の今日4月10日は、それぞれが違う場所で過ごしています。だからこそ、毎日の何気ない会話、熱くなれる学校行事、隣にいる友人を大切に過ごします。3月14日、卒業の日、たくさんの思い出を胸に天童四中を翔くために。